

ECONOMY TOPICS

経済トピックス

2014.11.7

No.429



業況 BSI、3 期ぶりに上昇 (平成 26 年 7～9 月期の県内企業業況調査結果)

調査内容 平成 26 年 7～9 月期の県内企業の業況実績
平成 26 年 10～12 月期の県内企業の業況見通し

調査時期 平成 26 年 10 月上旬

調査対象企業 県内中堅企業 227 社

回答企業 129 社(回収率:56.8%)

}	製造業	32 社	建設業	24 社	卸売業	24 社	
	小売業	20 社	運輸業	10 社	サービス業	19 社	
}		青森地区	43 社	津軽地区	33 社	県南地区	53 社

BSIとは

Business Survey Index の略であり、企業業況判断指標という意味である
指標の求め方は次の通り

BSI = 「業況良好企業及びやや良好企業の割合」 - 「業況不振企業及びやや不振企業の割合」

注:業況判断は前年同期との比較による

1. 概 況

平成 26 年 7～9 月期の全産業「業況 BSI」は前期(26 年 4～6 月期)比 1.9 ポイント上昇の 10.9 となり 3 期ぶりに幾分上昇した。小売業が落ち込んだものの、建設業、運輸・サービス業、卸売業、製造業で幾分改善がみられた。

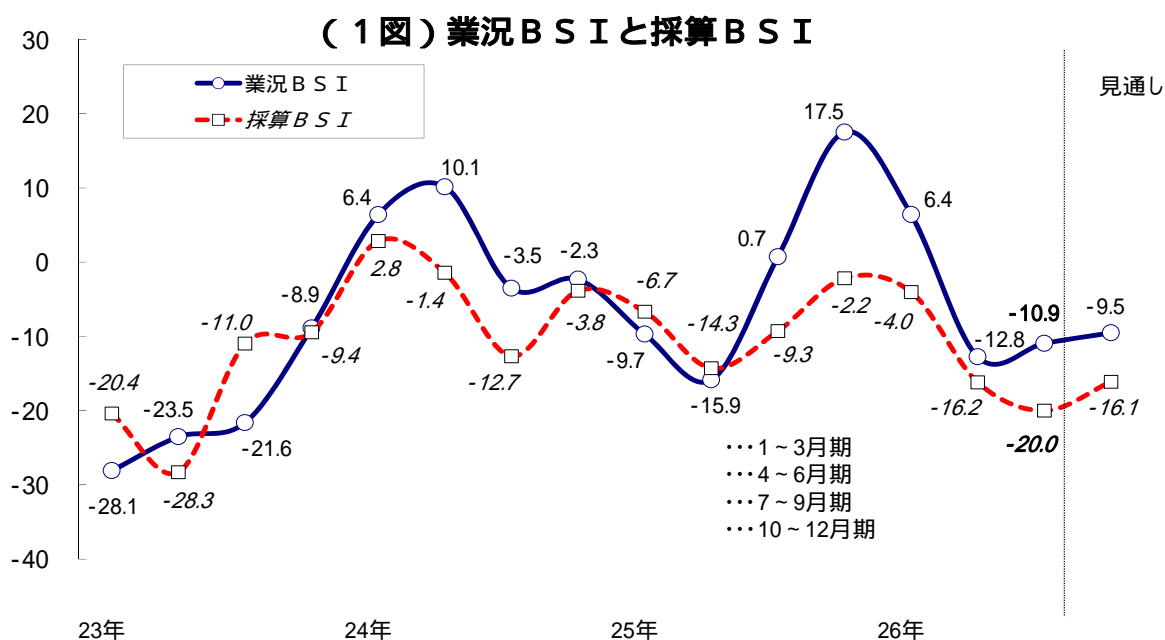
全産業「採算 BSI」は同 3.8 ポイント低下の 20.0 となった。建設業、運輸・サービス業で幾分好転がみられたものの、卸売業や製造業が低下し全体では 3 期連続で低下した。

主要 BSI をみると、「生産高 BSI」、「操業度 BSI」はともに上昇した。建設業の「受注

高 BSI」は大幅上昇しプラスに転じた。「売上高 BSI」は 2 期連続で低下し、「出荷高 BSI」は 3 期ぶりに上昇した。「仕入単価 BSI」と「販売単価 BSI」はそれぞれ 2 期連続で低下し、価格ギャップは 4 期連続で縮小した。「在庫投資 BSI」は製造業で低下、非製造業は上昇した。「設備投資 BSI」は製造業で大幅に低下、非製造業は上昇した。

来期の見通しについては、消費税率引き上げの影響の底打ち気配から、「業況 BSI」、「採算 BSI」、とも幾分上昇する見通しである。

(以上、1～12 図、付表 参照)



(付表)平成26年7～9月期の主要BSI一覧 (前期26年4～6月期)

	当期	前期比		当期	前期比
業況 BSI	-10.9	1.9	仕入単価 BSI	52.0	8.4
採算 BSI	-20.0	3.8	販売単価 BSI	19.0	2.7
生産高 BSI	3.1	14.9	在庫投資BSI 製造	-3.1	3.1
操業度 BSI	3.2	6.1	” 非製造	13.6	7.1
受注高 BSI	33.3	39.8	設備投資BSI 製造	-15.6	33.2
売上高 BSI	-9.6	4.5	” 非製造	8.6	6.7
出荷高 BSI	-3.2	5.6	現金・預金 BSI	-6.6	3.0

(付表)来期見通し (平成26年10～12月期)

	来期見込み	当期比		来期見込み	当期比
業況 BSI	-9.5	1.4	採算 BSI	-16.1	3.9

2. 26年7～9月期の業況

(1) 業況 3期ぶりに幾分上昇

26年7～9月期の全産業「業況BSI」は前期比1.9ポイント上昇の10.9となった。業況判断の内訳をみると、業況好転とした企業の割合が同2.0ポイント増加の29.7%、業況悪化とした企業の割合は同0.2ポイント増加の40.6%となった。

産業別の「業況BSI」をみると、製造業は前期比1.8ポイント上昇の18.8となった。食料品、パルプ・紙、窯業・土石で悪化したものの、木材・木製品、精密機械、電子部品・デバイスなどが好転した。

非製造業は、小売業が17.9ポイント低下の-60.0と大幅に低下したものの、建設業は同6.0ポイント上昇の12.5、運輸・サービス業は同15.5ポイント上昇の3.4、卸売業は

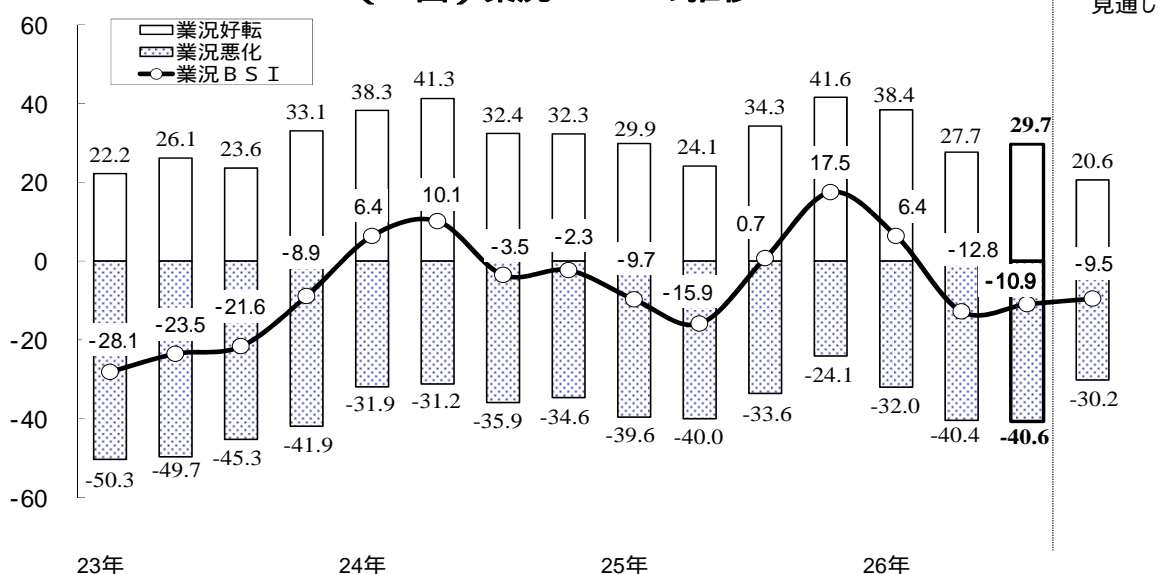
同4.2ポイント上昇の0.0とそれぞれ上昇した。

小売業はスーパー、衣料品、自動車、農機、燃料、書籍など幅広い業種で低下した。卸売業は、飲食料品で好転との回答割合が増加したほか、医療機器、管材、漁具などで好転した。建設業は、総合建設、土木、設備で好転がみられた。運輸・サービス業は貨物運送、宿泊で前期に比べ悪化とする割合が減少し上昇した。

当期は、消費税率引上げに伴う反動減の影響から、小売業が引き続き大幅に低下したものの、製造業、建設業、卸売業、運輸・サービス業が上昇した。

(以上、2図、付表 参照)

(2図) 業況BSIの推移



(付表) 産業別業況BSIの推移

	製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
25年7 - 9月期	-6.1	28.6	8.0	-45.5	10.3	0.7
25年10 - 12月期	22.2	21.4	40.0	11.8	-6.5	17.5
26年1 - 3月期	-18.5	28.0	33.3	38.9	-29.0	6.4
26年4 - 6月期	-20.6	6.5	-4.2	-42.1	-12.1	-12.8
26年7 - 9月期	-18.8	12.5	0.0	-60.0	3.4	-10.9
来期見通し	-6.3	-4.3	0.0	-35.0	-7.1	-9.5

(2) 採算の状況

「採算BSI」3期連続で低下

26年7～9月期の全産業「採算BSI」は前期比3.8ポイント低下の20.0となった。採算判断の内訳をみると、採算好転とした企業の割合は同1.6ポイント低下の10.4%、一方、採算悪化とした企業の割合は同2.2ポイント増加の30.4%となった。

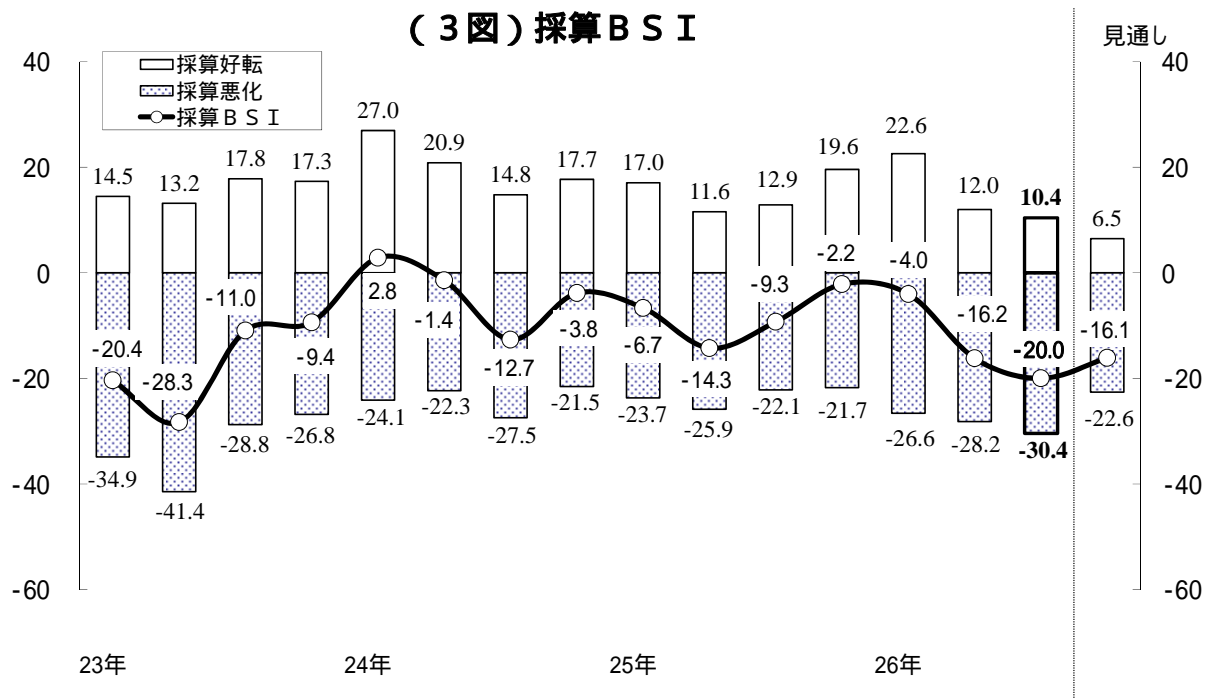
産業別の「採算BSI」をみると、製造業は前期比4.6ポイント低下の16.7となった。

精密機械、養鶏で採算好転がみられたものの、調味料、農産加工、飲料、木材・木製品、化学、生コン、鉄鋼などで悪化した。

非製造業は、建設業が同4.6ポイント上昇の8.3、運輸・サービス業が同4.0ポイント上昇の24.1となったものの、小売業は前期と同水準の35.0、卸売業は同22.0ポイント低下の18.2となった。

建設業は悪化が幾分みられたが一部で好転もみられた。運輸・サービス業は、道路貨物運送、旅客運送で悪化割合の減少がみられた。卸売業は青果物が好転したものの、水産物、燃料などが悪化した。

当期の採算BSIは3期連続で低下した。建設業、運輸・サービス業で好転したものの、卸売業が著しく悪化したほか、製造業も悪化した。小売業は横ばいながら低水準で推移している。(以上、3図、付表参照)



(付表) 産業別採算BSIの推移

	製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
25年7-9月期	-18.8	3.6	-10.7	-17.4	-3.4	-9.3
25年10-12月期	2.9	-3.6	3.8	0.0	-12.5	-2.2
26年1-3月期	-11.5	4.0	20.8	27.8	-41.9	-4.0
26年4-6月期	-12.1	-12.9	3.8	-35.0	-28.1	-16.2
26年7-9月期	-16.7	-8.3	-18.2	-35.0	-24.1	-20.0
来期見通し	-6.7	-12.5	-9.1	-30.0	-25.0	-16.1

(3) 生産高・操業度の状況

「生産高 BSI」は大幅上昇、プラスに転じる

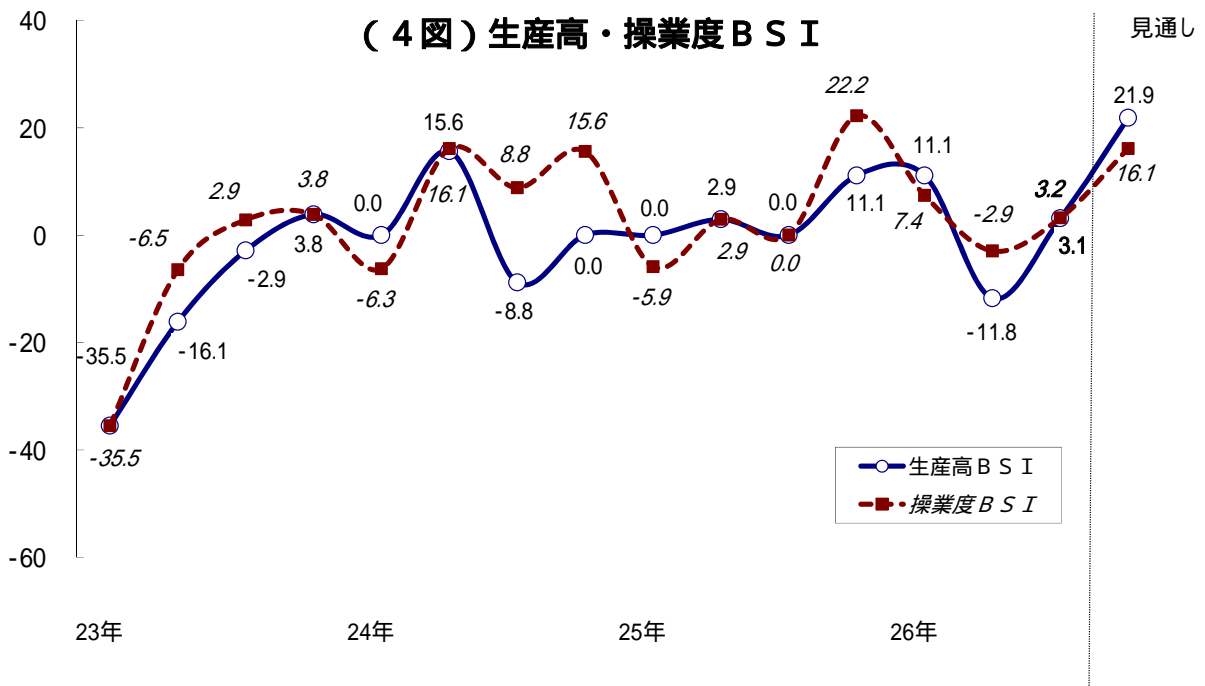
26 年 7～9 月期の「生産高 BSI」は前期比 14.9 ポイント上昇の 3.1 となった。一方、「操業度 BSI」は同 6.1 ポイント上昇の 3.2 となった。

飲料、農産加工、化学、生コン、農機などで減産の動きがみられたものの、養鶏、食肉、木材・木製品、電子部品・デバイス、精

密機械、造船などで増産となり、全体では大幅な増加となった。

来期は「生産高 BSI」が当期比 18.8 ポイント上昇の 21.9、「操業度 BSI」が同 12.9 ポイント上昇 16.1 と、ともに大幅に上昇する見通しである。

(以上、4 図 参照)



(4) 受注高の状況

「受注高 BSI」4 期ぶり大幅上昇、プラスに転じる

26 年 7～9 月期の建設業の「受注高 BSI」は前期比 39.8 ポイント上昇の 33.3 となった。内訳をみると、受注増加とした企業の割合が同 28.4 ポイント増加の 54.2%、一方、受注減少とした企業の割合は同 11.5 ポイント減少の 20.8%となった。当期の BSI は受注増加の割合が減少を上回り、4 期ぶりに上昇した。

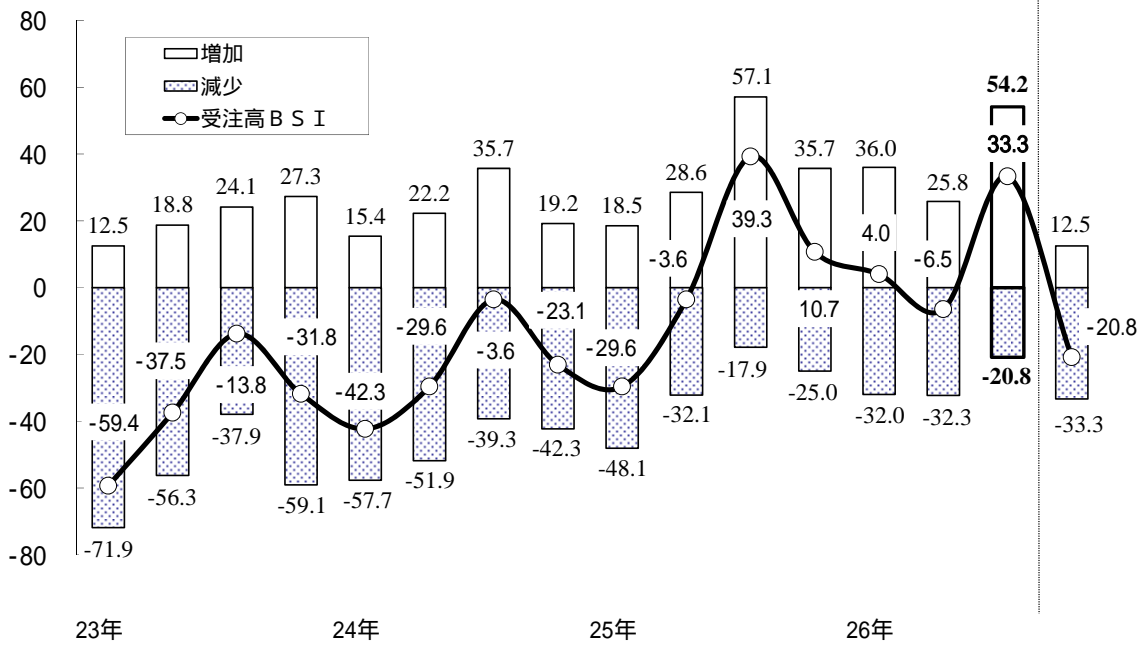
当期は、消費税増税に伴う駆け込み需要の反動減の影響も一服し、総合建設、塗装、土木、電気通信で受注増加がみられた。

来期は、受注増加とする割合が当期比

41.7 ポイント減少の 12.5%、受注減少とする企業の割合は同 12.5 ポイント増加の 33.3% と見込まれている。この結果、「受注高 BSI」は同 54.1 ポイント低下の 20.8 と低下する見通しである。

(以上、5 図 参照)

(5図) 受注高 B S I



(5) 売上高・出荷高の状況

「売上高 BSI」2 期連続で低下

26年7~9月期の「売上高 BSI」は、前期比 4.5 ポイント低下の 9.6 となり、2 期連続で低下した。

産業別の「売上高 BSI」をみると、小売業が前期比 5.0 ポイント低下の 40.0、卸売業が同 19.6 ポイント低下の 4.2 とそれぞれ低下した。一方、運輸・サービス業は同 9.9 ポイント上昇の 6.9 となった。

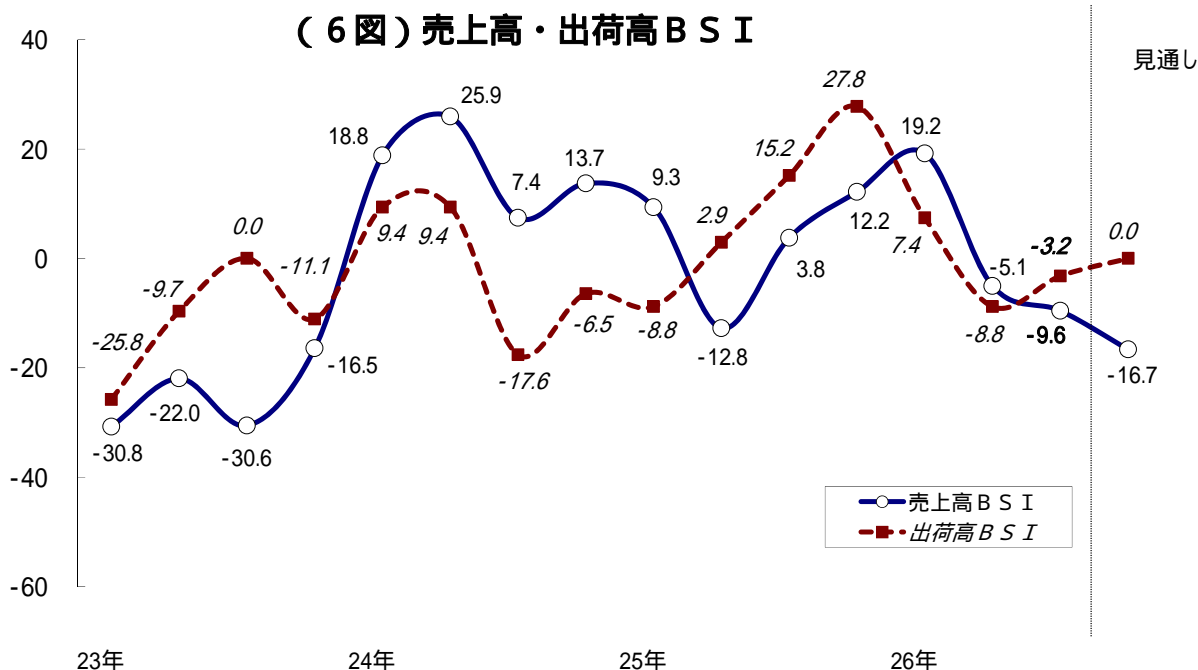
小売業は、衣料品、自動車、農業機械、書籍、燃料、家電などで減少割合が広がった。卸売業は青果物、漁具、医療機器などで増加したものの、水産物、建設資材、衣料品、食品機械などで減少した。卸・小売業とも消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動減の影響が引き続きうかがわれた。運輸・サービス業は、旅行斡旋、ガス、貸金で減少したものの、貨物運送、宿泊、警備、自動車整備、レンタル、介護、タクシーは増加した。

なお、来期の「売上高 BSI」は小売業が当期と同水準、卸売業が建設資材、肥料農薬の増加により幾分上昇が見込まれるものの、運輸・サービス業は低下が見込まれ、全体では当期比 7.1 ポイント低下の 16.7 とさらに落ち込む見通しである。

製造業の 26 年 7~9 月期の「出荷高 BSI」は前期比 5.6 ポイント上昇の 3.2 と 3 期ぶりに上昇した。飲料、木材・木製品、生コン、鉄鋼などで減少したものの、パルプ・紙、化学、農業機械、電子部品・デバイスなどで出荷増加の動きがみられた。

来期の「出荷高 BSI」は、水産加工、飲料、木材・木製品、パルプ・紙、化学、電子部品・デバイスなどで増加が見込まれており、当期比 3.2 ポイント上昇の 0.0 と上昇する見通しである。

(以上、6 図、付表 参照)



(付表) 売上高・出荷高BSIの推移

	出荷高BSI		売上高BSI		
	製造業	卸売業	小売業	運輸・サービス	
25年 7 - 9月期	15.2	7.1	-21.7	20.7	3.8
25年10 - 12月期	27.8	30.8	23.5	-9.7	12.2
26年 1 - 3月期	7.4	45.8	33.3	-9.7	19.2
26年 4 - 6月期	-8.8	15.4	-35.0	-3.0	-5.1
26年 7 - 9月期	-3.2	-4.2	-40.0	6.9	-9.6
来期見通し	0.0	0.0	-40.0	-14.3	-16.7

(6) 価格の状況

価格ギャップ、4期連続で縮小

26年7～9月期の「仕入単価BSI」は前期比8.4ポイント低下の52.0となり、2期連続で低下となったものの、依然として高い水準にとどまっている。

産業別にみると、製造業が同11.6ポイント低下の53.1、非製造業は同6.9ポイント低下の51.5となった。

製造業は、食料品、生コンで低下がみられた。

非製造業は、卸売業が前期比7.3ポイント低下の54.2、建設業が同5.2ポイント低下の62.5、小売業が同5.0ポイント低下の35.0となった。

卸売業は建設資材、衣服、肥料・農薬、医療用機械などで低下した。小売業は燃料

で低下がみられた。建設業は総合建設で低下がみられた。

26年7～9月期の「販売単価BSI」は前期比2.7ポイント低下の19.0と2期連続で低下した。産業別にみると、製造業は前期比7.7ポイント低下の18.8、非製造業は同1.1ポイント低下の19.1となった。

製造業は木材・木製品、電子部品・デバイス、造船で販売単価が低下した。

非製造業は、小売業が前期比15.0ポイント低下の0.0、建設業が同6.5ポイント低下の0.0となった。一方、卸売業は同5.8ポイント上昇の45.8、運輸・サービス業は同3.8ポイント上昇の25.0となった。

小売業は、酒類、燃料、家電で低下がみ

られた。建設業は識別工事業で上昇したとする割合が減少した。一方、卸売業は青果物、水産物、建設材料、食品機械、燃料、紙で上昇がみられた。また運輸・サービス業は、道路貨物運送、宿泊、自動車整備、タクシーで上昇がみられた。

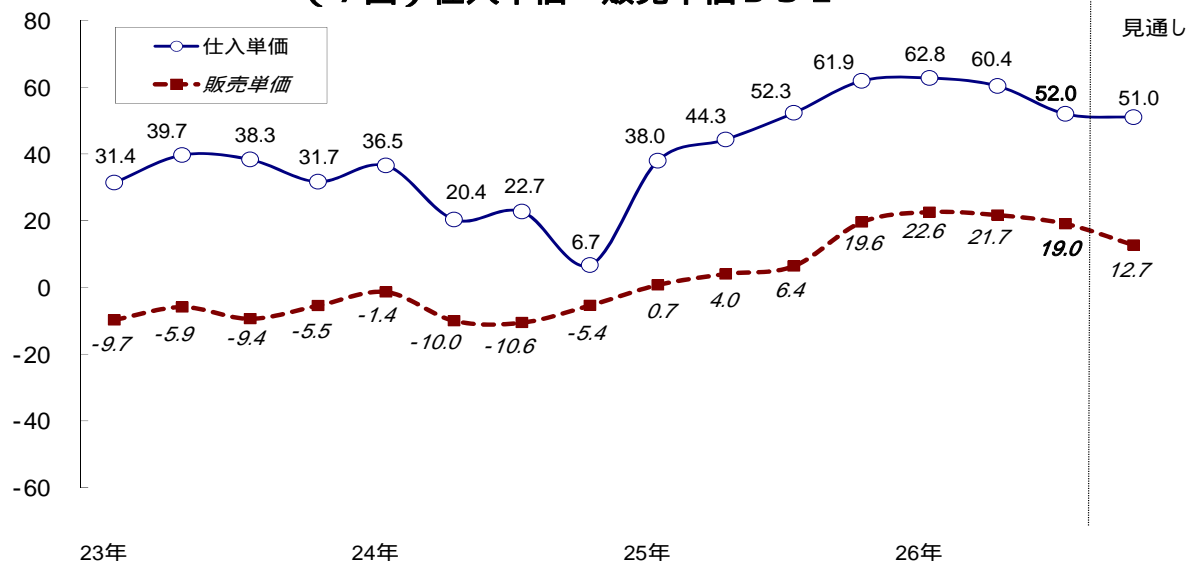
この結果、当期は仕入単価、販売単価とも低下する中、価格ギャップについては、4

期連続で縮小した。

なお、来期については、「仕入単価 BSI」が当期比 1.0 ポイント低下の 51.0、「販売単価 BSI」が同 6.3 ポイント低下の 12.7 となり、価格ギャップは幾分拡大する見通しである。

(以上、7 図、付表 参照)

(7 図) 仕入単価・販売単価 B S I



(付表) 仕入単価 B S I の推移 (上昇-低下)

	製造業					仕入単価 BSI
	建設業	卸売業	小売業	非製造業		
25年 7 - 9月期	43.8	71.4	44.4	50.0	55.8	52.3
25年10 - 12月期	58.8	78.6	57.7	47.1	63.4	61.9
26年 1 - 3月期	66.7	64.0	70.8	44.4	61.2	62.8
26年 4 - 6月期	64.7	67.7	61.5	40.0	58.4	60.4
26年 7 - 9月期	53.1	62.5	54.2	35.0	51.5	52.0
来期見通し	56.3	66.7	37.5	40.0	48.5	51.0

(付表) 販売単価 B S I の推移 (上昇-低下)

	製造業						販売単価 BSI
	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	非製造業		
25年 7 - 9月期	6.1	-3.6	17.9	4.3	6.9	6.5	6.4
25年10 - 12月期	16.7	-7.1	50.0	29.4	16.1	20.6	19.6
26年 1 - 3月期	25.9	8.0	41.7	50.0	0.0	21.6	22.6
26年 4 - 6月期	26.5	6.5	40.0	15.0	21.2	20.2	21.7
26年 7 - 9月期	18.8	0.0	45.8	0.0	25.0	19.1	19.0
来期見通し	12.5	-4.3	33.3	0.0	17.9	12.8	12.7

(7) 在庫投資・在庫水準の状況

26年7～9月期の「在庫投資BSI」は、製造業が前期比3.1ポイント低下の-3.1、非製造業は同7.1ポイント上昇の13.6となった。

製造業は酒類、パルプ・紙で積み増しの動きがみられたものの、水産加工、木材・木製品、化学で手控えの動きがみられ、全体では低下した。

非製造業をみると、卸売業の建設材料、機械器具、水産物、燃料、肥料で、小売業ではスーパーと酒類で積み増しの動きがみられた。

来期の在庫投資BSIは、製造業が当期比12.8ポイント上昇の9.7、非製造業は同4.5ポイント低下の9.1と見込まれる。

次に在庫水準についてみると、まず製造

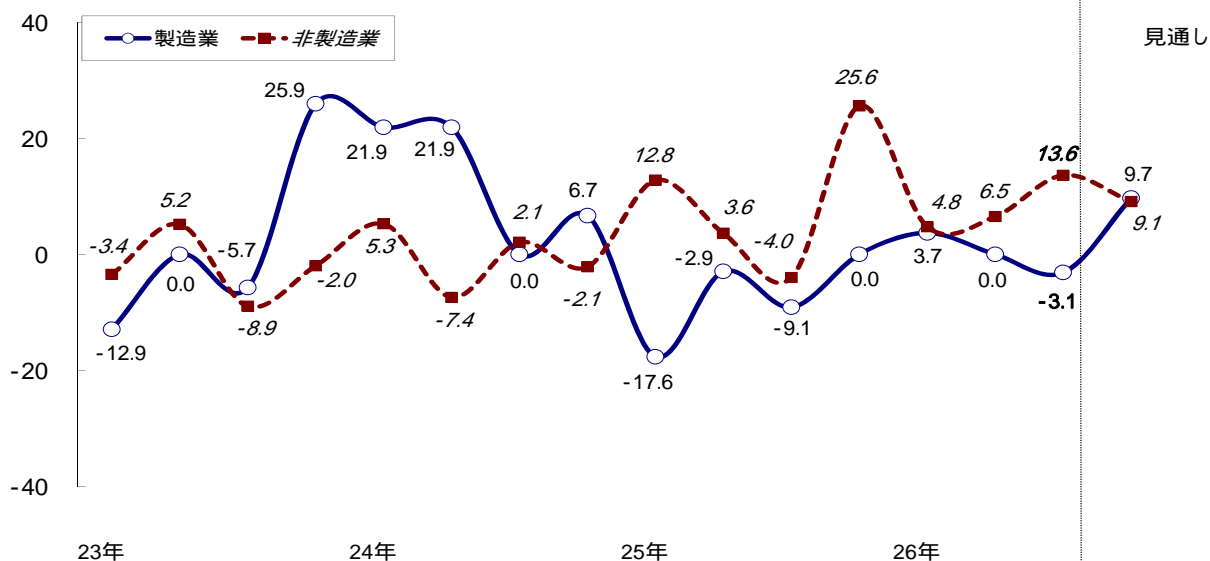
非製造業で在庫積み増しの動き

業の「原材料在庫水準BSI」は前期比7.9ポイント低下の-20.0となった。農産加工、水産加工、精肉、木材・木製品などで不足感がみられた。来期は、幾分不足感が和らぐ見通しとなっている。

一方、「製品・商品在庫水準BSI」は、製造業の「製品在庫水準BSI」が前期比3.1ポイント低下の-3.1、卸・小売業の「商品在庫水準BSI」が同2.3ポイント上昇の2.3となった。製造業の在庫不足感が幾分みられる。

来期は、製品では水産加工と食肉で、商品では水産物と建設材料で、それぞれ不足感が見込まれている。(以上、8図、付表参照)

(8図) 在庫投資BSI (製造業、非製造業)



(付表) 在庫関連BSIの推移

	在庫投資BSI		原材料在庫水準BSI	製品・商品在庫水準BSI	
	製造業	非製造業	製造業	製造業	卸・小売業
25年7 - 9月期	-9.1	-4.0	-9.4	-6.1	9.8
25年10 - 12月期	0.0	25.6	-14.3	-2.8	16.3
26年1 - 3月期	3.7	4.8	-30.8	-7.4	2.4
26年4 - 6月期	0.0	6.5	-12.1	0.0	0.0
26年7 - 9月期	-3.1	13.6	-20.0	-3.1	2.3
来期見通し	9.7	9.1	-10.0	-3.1	0.0

(8) 設備投資の動向

製造業が大幅低下、非製造業は上昇

26年7～9月期の「設備投資BSI」は、製造業が前期比33.2ポイント低下の15.6と大幅に低下し、一方、非製造業は同6.7ポイント上昇の8.6となった。

製造業は、飲料、水産加工、木材・木製品、パルプ・紙、化学、生コン、鉄鋼、農機、船舶などで低下した。

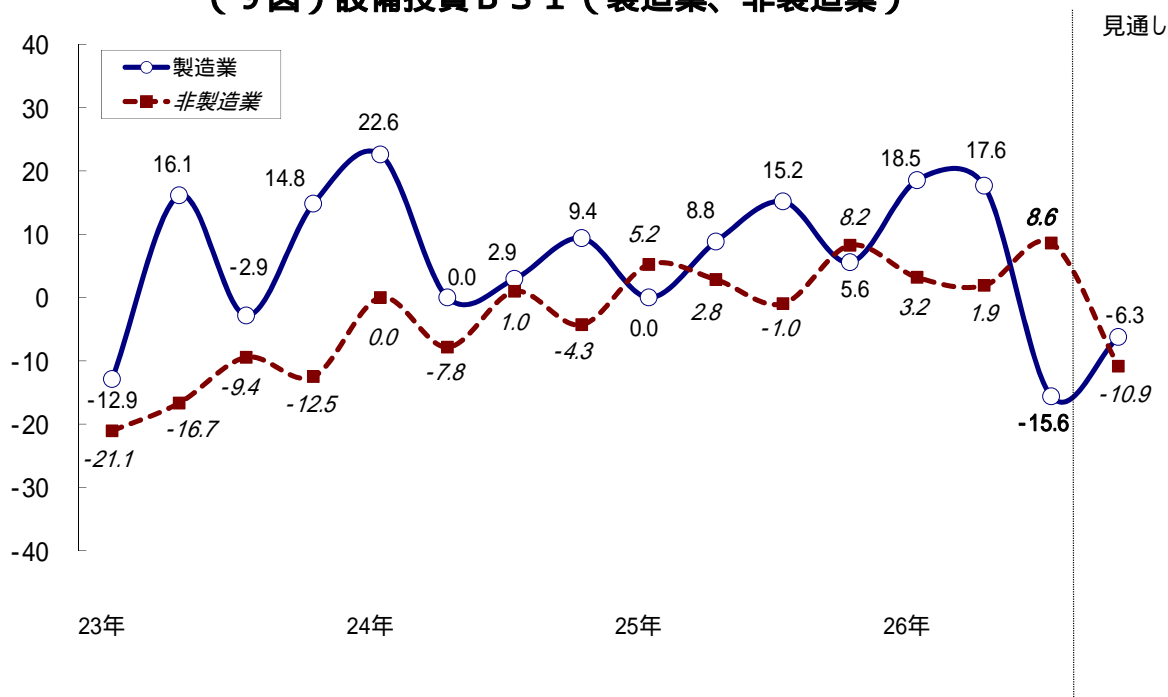
非製造業をみると、建設業は重機、車輛購入、太陽光発電システムなどの投資がみられた。卸売業は建設資材で事務所移転、コンピュータ更新、その他の卸売業でシステム更新などの投資がみられた。小売業はスーパーで既存設備の維持・更新、土地購入の投資がみられた。ただし駆け込み需要の反動減の影響などから慎重姿勢が引き続き

うかがわれた。運輸・サービス業は道路貨物運送で減少が目立った。ガス事業ではガスパ入替などの投資がみられた。

なお、来期の「設備投資BSI」は、製造業が当期比9.3ポイント上昇の6.3、非製造業は同19.5ポイント低下の10.9が見込まれている。

(以上、9図参照)

(9図) 設備投資BSI (製造業、非製造業)



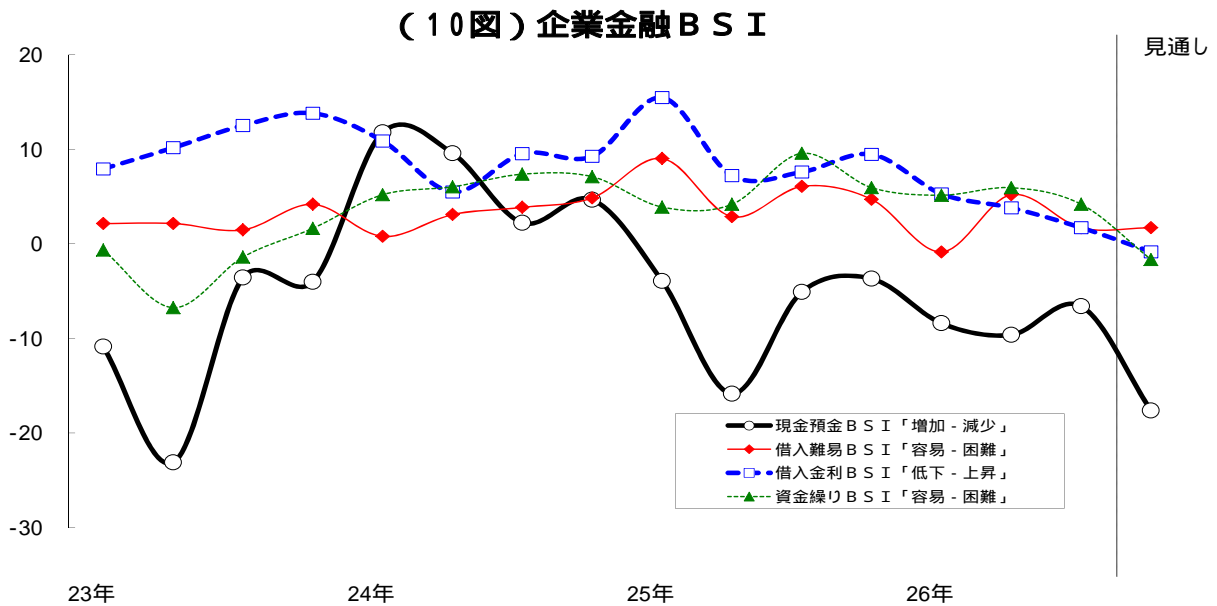
(9) 企業金融の動向

手元資金の減少傾向がやや弱まる

26年7～9月期の企業金融の動向をみると、「現金・預金 BSI」が前期比 3.0 ポイント上昇の 6.6 となり、手元資金の減少傾向がやや弱まった。また、「借入難易 BSI」が同 3.5 ポイント低下の 1.7、「借入金利 BSI」は同 2.1 ポイント低下の 1.7、となった。「資金繰り BSI」は同 1.7 ポイント低下の 4.2 とやや難化の動きがみられた。

来期は「現金・預金 BSI」が当期比 11.0 ポイント低下の 17.6 と手元資金の厳しさが強まる見通しである。その他、借入難度は横ばいが見込まれるものの、借入金利は上昇し、資金繰り面の窮屈さは幾分増すものとみられる。

(以上、10 図、付表 参照)



(付表) 企業金融 B S I の推移

	現金預金 BSI (増加 - 減少)	借入難易 BSI (容易 - 困難)	借入金利 BSI (低下 - 上昇)	資金繰り BSI (容易 - 困難)
25年 7 - 9月期	-5.1	6.1	7.6	9.6
25年10 - 12月期	-3.7	4.7	9.4	5.9
26年 1 - 3月期	-8.4	-0.9	5.3	5.1
26年 4 - 6月期	-9.6	5.2	3.8	5.9
26年 7 - 9月期	-6.6	1.7	1.7	4.2
来期見通し	-17.6	1.7	-0.9	-1.7

(10) 地区別の状況

「業況 BSI」 青森が上昇、津軽、県南は低下

26年7～9月期の「業況 BSI」を地区別にみると、青森地区が前期比 18.3 ポイント上昇の 4.7、津軽地区が同 9.2 ポイント低下の 24.2、県南地区が同 4.9 ポイント低下の 15.4 と 1 地区上昇、2 地区低下となった。主要 BSI をみると、まず、「生産高 BSI」

は、青森地区が前期比 10.7 ポイント低下の 14.3 となった。一方、県南地区は同 33.4 ポイント上昇の 17.6、津軽地区は同 5.4 ポイント上昇の 37.5 となった。

「出荷高 BSI」は、津軽地区が前期比 19.6 ポイント上昇の 37.5、青森地区が同

12.5ポイント上昇の0.0、県南地区が同2.0ポイント上昇の12.5と3地区とも上昇した。

「売上高BSI」は、津軽地区が前期比13.6ポイント上昇の0.0、青森地区が同11.1ポイント上昇の7.4、一方、県南地区は同33.3ポイント低下の33.3となった。

建設業の「受注高BSI」は、県南地区が前期比45.6ポイント上昇の55.6、青森地区が同43.3ポイント上昇の33.3、津軽地区が同18.2ポイント上昇の0.0となった。

「在庫投資BSI」は、県南地区が前期比5.2ポイント低下の3.1、青森地区が同2.8ポイント低下の11.5となった。一方、津軽地区は同30.6ポイント上昇の5.6となった。

「設備投資BSI」は、青森地区が前期比9.7ポイント上昇の19.0、津軽地区が同2.3ポイント上昇の15.6となった。一方、県南地区は同19.3ポイント低下の0.0となった。

「採算BSI」は、県南地区が前期比13.1ポイント低下の25.0、津軽地区が同3.1ポイント低下の31.3となった。一方、青森地

区は同6.5ポイント上昇の4.9となった。

「資金繰りBSI」は、青森地区が前期比5.1ポイント上昇の16.7、津軽地区が同4.2ポイント上昇の6.9となった。一方、県南地区は同12.5ポイント低下の0.0となった。

来期の「業況BSI」をみると、津軽地区が当期比21.1ポイント上昇の3.1、県南地区が同11.5ポイント上昇の3.9、一方、青森地区は同25.6ポイント低下の20.9と地区ごとではばらつきがみられる。

他の主要BSIについても、来期は、「業況BSI」と同様に、地区ごとにばらつきがみられ、上昇と低下が混在するまだら模様となっている。

(以上、1表参照)

(1表) 地域別BSIの推移

	業況BSI			生産高BSI			出荷高BSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
25年7-9月期	-6.3	5.7	3.7	-44.4	-33.3	33.3	-11.1	-16.7	38.9
25年10-12月期	18.6	7.5	24.1	-25.0	-11.1	36.8	12.5	11.1	42.1
26年1-3月期	9.8	5.7	6.3	-40.0	0.0	33.3	0.0	0.0	13.3
26年4-6月期	-13.6	-15.0	-10.5	25.0	-42.9	-15.8	-12.5	-57.1	10.5
26年7-9月期	4.7	-24.2	-15.4	14.3	-37.5	17.6	0.0	-37.5	12.5
来期見通し	-20.9	-3.1	-3.9	14.3	50.0	11.8	-57.1	37.5	5.9
	売上高BSI			受注高BSI			在庫投資BSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
25年7-9月期	0.0	27.3	-10.7	44.4	22.2	50.0	-10.3	-23.5	5.4
25年10-12月期	12.0	21.7	3.8	10.0	0.0	20.0	28.0	20.0	0.0
26年1-3月期	17.9	15.0	24.0	12.5	12.5	0.0	12.5	-18.8	10.3
26年4-6月期	-3.7	-13.6	0.0	-10.0	-18.2	10.0	14.3	-25.0	8.3
26年7-9月期	7.4	0.0	-33.3	33.3	0.0	55.6	11.5	5.6	3.1
来期見通し	-7.4	-21.1	-23.1	-11.1	-16.7	-33.3	3.8	16.7	9.7
	設備投資BSI			採算BSI			資金繰りBSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
25年7-9月期	2.2	-8.6	11.1	-12.8	-13.5	-3.6	20.8	-11.4	13.2
25年10-12月期	11.9	-2.6	11.3	4.7	-10.0	-1.8	9.1	-13.2	17.0
26年1-3月期	7.5	-11.8	21.7	0.0	-11.4	0.0	15.4	-15.2	13.6
26年4-6月期	9.3	-17.9	19.3	-11.4	-28.2	-11.9	11.6	-11.1	12.5
26年7-9月期	19.0	-15.6	0.0	-4.9	-31.3	-25.0	16.7	-6.9	0.0
来期見通し	-4.8	-12.5	-12.0	-12.2	-12.5	-21.6	7.1	-13.8	-2.0

3. 経営上の問題点

「競争激化」など8項目で割合が増加

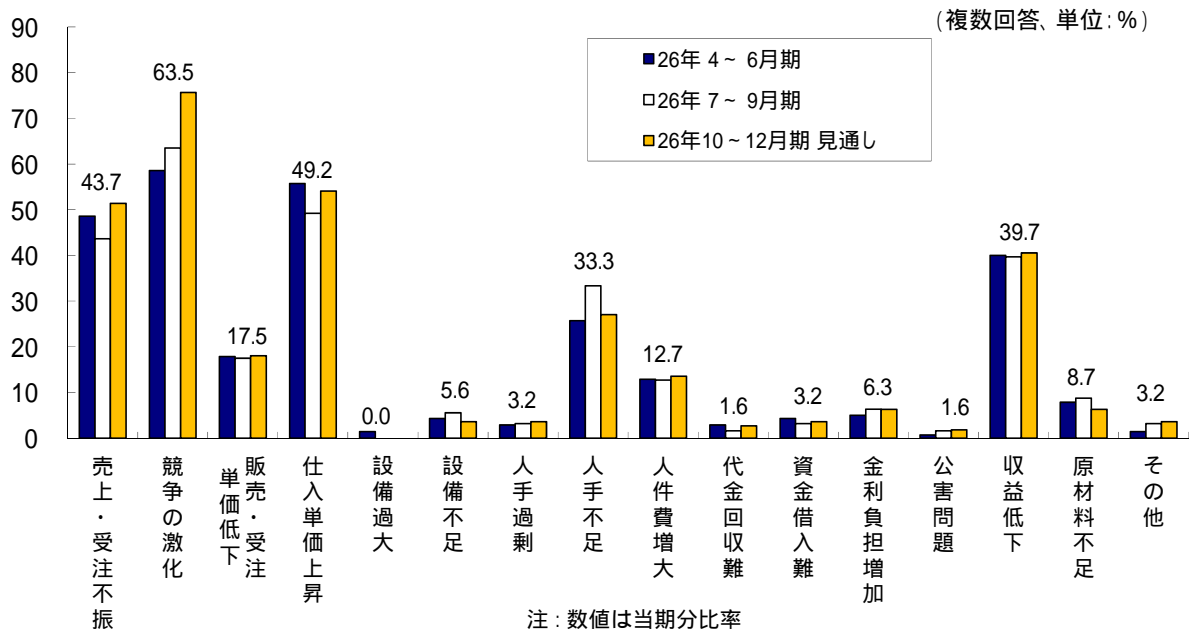
26年7～9月期の経営上の問題点については、「競争の激化」が63.5%でトップとなった。次いで「仕入単価上昇」が49.2%、「売上・受注不振」が43.7%、「収益低下」が39.7%、「人手不足」が33.3%、「販売・受注単価低下」が17.5%などと続いた。当期は、「売上・受注不振」、「仕入単価上昇」、「収益低下」などの割合が前期に比べ減少したものの、「競争の激化」、「人手不足」、「原材料不足」などの割合は幾分増加した。

産業別のトップ項目は、建設業、卸売業、小売業、サービス業が「競争の激化」、製造業は「仕入単価上昇」、運輸業は「人手不足」であった。「競争の激化」は、小売業が8

割弱と最大だったが、消費税率引き上げ後の値引き競争の激化が想定される。「人手不足」は運輸業で6割と前期比1割弱減少したものの、引き続き高い割合を示した。

なお、来期の経営上の問題点については、「競争の激化」が当期比12.2ポイント増の75.7%と依然としてトップを占める見通しである。また「仕入単価上昇」は同4.9ポイント増の54.1%、「売上・受注不振」は同7.7ポイント増の51.4%と増加が見込まれている。全体に消費税率引き上げによる影響の底打ち気配が窺われるなか慎重な姿勢もみられる。(以上、11図、付表参照)

(11図) 経営上の問題点



(付表) 経営上の問題点

(複数回答、単位：%)

	売上・受注不振	競争激化	販売・受注単価低下	仕入単価上昇	人手不足	人件費増大	金利負担増加	収益低下
25年7～9月期	41.3	63.0	18.1	47.1	23.2	8.7	3.6	34.1
25年10～12月期	37.7	52.2	16.7	50.7	26.8	15.9	5.1	29.0
26年1～3月期	47.9	64.1	22.2	58.1	23.1	13.7	3.4	37.6
26年4～6月期	48.6	58.6	17.9	55.7	25.7	12.9	5.0	40.0
26年7～9月期	43.7	63.5	17.5	49.2	33.3	12.7	6.3	39.7
来期見通し	51.4	75.7	18.0	54.1	27.0	13.5	6.3	40.5

4. 来期の見通し

来期(26年10～12月期)の「業況BSI」は、全産業ベースで当期比1.4ポイント上昇の9.5と幾分上昇する見通しである。産業別では、製造業が同12.5ポイント上昇の6.3、小売業が同25.0ポイント上昇の35.0とそれぞれ上昇が見込まれる。一方、卸売業は当期と同水準の0.0、建設業は同16.8ポイント低下の4.3、運輸・サービス業は同10.5ポイント低下の7.1となる見通し。

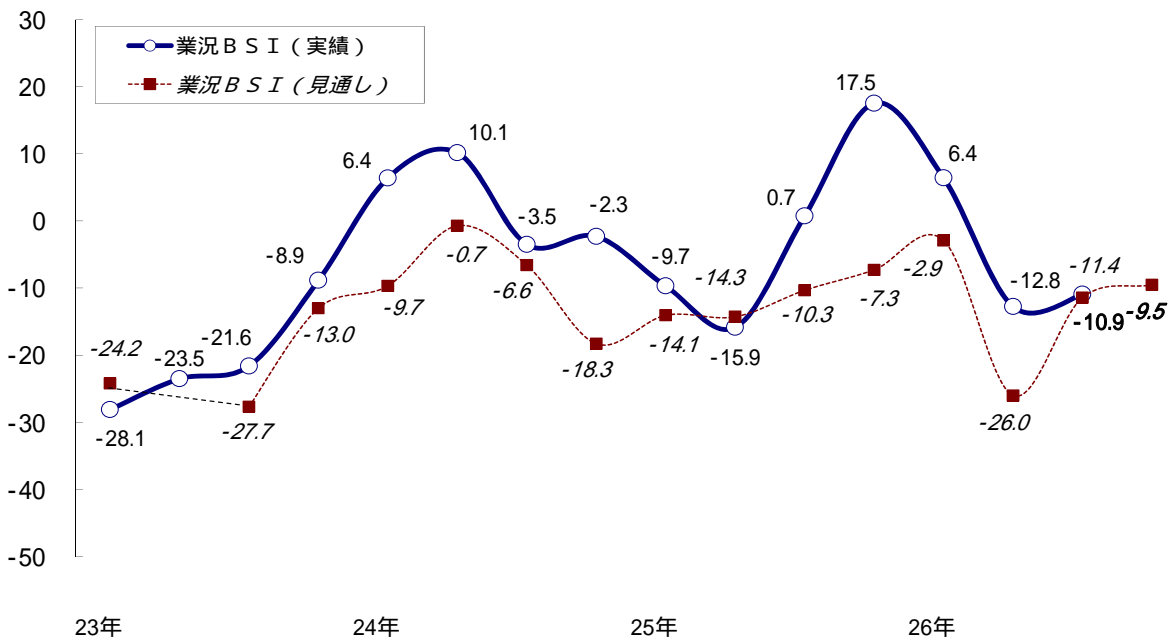
次に「採算BSI」をみると、全産業ベースで当期比3.9ポイント上昇の16.1となる見通しである。産業別にみると、製造業が同10.0ポイント上昇の6.7、卸売業が同9.1ポイント上昇の9.1、小売業が同5.0ポイ

ント上昇の30.0となる見通しである。一方、建設業は同4.2ポイント低下の12.5、運輸・サービス業は同0.9ポイント低下の25.0と見込まれている。

このほかの主要BSIでは、「生産高BSI」、「操業度BSI」が大幅上昇、「出荷高BSI」も上昇する見通しであり、全体的に消費税率引上げによる反動減の影響の底打ち気配はみられるものの、「受注高BSI」は大幅低下、「売上高BSI」も低下がそれぞれ見込まれている。

(以上、1～12図、付表参照)

(12図) 業況BSIの見通しと実績の推移



(付表) 業況BSI、採算BSIの来期見通し

		製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
業況BSI	26年7-9月期	-18.8	12.5	0.0	-60.0	3.4	-10.9
	来期見通し	-6.3	-4.3	0.0	-35.0	-7.1	-9.5
採算BSI	26年7-9月期	-16.7	-8.3	-18.2	-35.0	-24.1	-20.0
	来期見通し	-6.7	-12.5	-9.1	-30.0	-25.0	-16.1

【本件に関する照会先】一般財団法人 青森地域社会研究所
担当:竹内慎司 TEL017-777-1511